

## 2020年度の山口大学の国際交流活動



山口大学国際戦略室



## 目次

はじめに .....	1
<b>第1章 2020年度の国際戦略室の活動 .....</b>	<b>2</b>
1. 国際戦略室の組織と役割 .....	3
2. 山口大学 HP「トピックス」で見る 2020年度の本学の国際連携活動 .....	3
3. 国際交流協定 .....	8
(1) 2020年度の国際交流協定の締結等 .....	8
(2) 大学等間国際交流協定 .....	8
(3) 部局等間国際交流協定 .....	12
4. 海外拠点 .....	15
5. 本部への海外からの来訪者 .....	16
6. 本学学長の海外訪問 .....	16
7. 海外ネットワークとの連携 .....	16
8. 研究者の交流 .....	16
9. 職員の研修 .....	17
10. 学内の国際化推進体制の整備 .....	19
11. 海外同窓会活動 .....	19
<b>第2章 2020年度の留学生部門の活動 .....</b>	<b>20</b>
1. 留学促進のための環境整備 .....	24
2. 海外学生交流促進のための広報活動 .....	24
<b>第3章 2020年度の学術研究部門の国際交流活動 .....</b>	<b>25</b>
独立行政法人日本学術振興会助成 .....	26
1. 外国人研究者招へい事業（一般プログラム） .....	26
【大学院創成科学研究科（工学系） 中山 雅晴 教授】	
2. 二国間交流事業共同研究 .....	26
【大学院創成科学研究科（工学系） 片山 祐 助教授】	
<b>第4章 2020年度の各部局の国際交流活動 .....</b>	<b>28</b>

はじめに

山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念として、人間力とバイタリティーあふれる人材を輩出できる大学、教員と学生が共に育つ「共育できる大学」を目指しています。この「共育」には、大学と地域が連携してグローバル化の中で共に学び発展すること、留学生や研究者を迎え、送り出すことによって、それらの国々と日本が相互の理解を深め、協力し合って平和で持続性のある世界を目指して手を携えるという意味も含まれています。これらの認識に基づき、本学はグローバル化を総合的に推進するとともに、留学生を含む全ての大学人が、互いの歴史、文化、民族、言語、宗教などの違いを超えて、共感・共鳴・協奏できる「ダイバーシティ・キャンパス」の実現を目指しています。

山口大学は、大学グローバル化推進に際し、学長のリーダーシップが十分に発揮できる意思決定及び組織体制を構築するため、2016年6月に「国立大学法人山口大学における国際戦略に関する規則」を制定し、学長のリーダーシップのもと、国際戦略室は関連する学内外の組織とも連携を深めながら、大学の国際化について様々な議論を重ね、大学グローバル化に向けた活動を推進しております。

一方で2020年度は新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響により、学生・教職員の海外渡航、及び海外からの留学生・研究者の受け入れはほとんどが中止となり、大学の国際交流活動は大きく制限を受けました。その終息は未だ不透明であります。このような状況であるからこそ、ICTを積極的に活用した新しい国際連携・交流の在り方が求められています。

本報告書では、第1章にて本学における国際化に向けた取り組みを2020年度の国際戦略室の活動をもとに取り纏め、留学生部門、学術研究部門にて実施された国際交流事業をそれぞれ第2章、第3章に掲載いたしました。また第4章には、各部局の国際活動の取り組みを掲載しております。

この報告書により、学内のみならず本学に関係される多くの方々、大学を取り巻く地域の方々に、本学の国際化の状況について知っていただけたら幸いです。同時に、報告書をお読み頂いた方々から、多くの貴重な意見を頂くことができれば、本学の国際化推進に役立つものと期待しています。これからも大学内外の関係者の皆様にお知恵をお借りしながら、積極的に山口大学の国際化を推進してまいりますので、皆様方の力強いご支援をお願いいたします。

国際戦略室

## 第 1 章 2020 年度の国際戦略室の活動

## 第1章 2020年度の国際戦略室の活動

### 1. 国際戦略室の組織と役割

2016年5月30日に、本学における教育、研究及び社会連携活動のうち国際的な活動に係る戦略の企画、立案及び実施に向けた方策を決定するため、「国立大学法人山口大学における国際戦略に関する規則」を制定した。本規則により、本学の国際戦略に関しては学長が決定を行い、国際戦略に基づいた本学の教育研究の国際交流及び研究成果を基盤とした国際社会への貢献を推進するため、山口大学国際戦略室が置かれた。

国際戦略室は、国際連携担当副学長及び教職員を構成員とし、以下の業務を行う。

- (1) 本法人の国際連携に係る企画、立案及び実施に関すること。
- (2) 国際交流に関する情報の収集、整理及び提供に関すること。
- (3) 国際協力・国際貢献活動に関すること。
- (4) 国際交流協定に基づく活動の推進に関すること。
- (5) 海外に向けた本学の国際交流に係る情報の発信に関すること。
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事項

毎月1回構成員による国際戦略室会議を開催し、上記業務に関する事柄について協議及び情報共有を行っている。

また、国際戦略室の活動を支援する事務組織として、学生支援部国際交流課が置かれ、国際戦略室と共に本学の国際化に関する企画立案及び実施を担っている。

### 2. 山口大学 HP「トピックス」で見る 2020 年度の本学の国際連携活動

○ THE 大学インパクトランキング 2020 で国内 9 位にランクインしました

山口大学は、イギリスの高等教育専門誌（THE: Times Higher Education）が 2020 年 4 月 22 日（水）に発表した「THE 大学インパクトランキング 2020」において、総合ランキングで国内 9 位（国立大学では 7 位、中・四・九州地域では 2 位）となりました。

「THE 大学インパクトランキング」は、国連の SDGs（Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標）の枠組みを通して、大学の社会貢献度をランキングするもので、2 回目となる今回は、世界 766 大学、日本からは 63 大学がランクインしました。

前回の「THE 大学インパクトランキング 2019」では、SDGs の 17 項目のうち大学と関係が深い 11 項目に関する取り組みが指標化されましたが、2020 年は全 17 項目となり、山口大学はすべてにエントリーしました。総合ランキングでは「SDG17」とそれ以外でスコアの高い 3 つの項目がランキングに反映され、山口大学は、「SDG1」国内 4 位、「SDG2」国内 6 位、「SDG12」国内 6 位及び「SDG17」国内 5 位の 4 項目でランク付けされました。

---

○ 重点連携大学事業活動報告会を実施しました

2020年5月27日(水)、5月28日(木)及び6月2日(火)の3日間、学長、副学長、シニア URA 及び国際戦略室員等が参加のもと、令和元年度重点連携大学事業活動報告会を開催しました。毎年実施している本報告会ですが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、学内 TV 会議システムを活用して開催しました。

本学では、研究分野を主体とした国際連携活動を強化することにより大学の研究レベルの高度化を図ると共に、学術を通じた教育支援及び国際貢献を行うことを目的として、特に本学の研究力向上につながると期待できる海外の大学を重点連携大学として選定し、選定大学との国際連携活動に対して支援を行っています。

報告会では、「重点連携大学」事業のもと、共同研究を行ってきた各研究グループの代表者から、昨年度の重点連携大学の研究者との共著論文の発表状況に加えて、外部資金の獲得状況や大学院生等を含めた研究者の交流状況等、活動内容とその成果、そして今後の展望等について報告がありました。

各研究チームの報告後に行われた質疑応答では、交流内容や研究内容について出席者から質問があがり、発表者との間で活発な意見交換が行われました。学長及び副学長からは、SDGs に貢献できる研究活動への期待が寄せられると共に、新型コロナウイルス感染症流行の影響で交流活動が制限される中、デジタル技術を用いるなどして、継続的に交流を実施して欲しいとのメッセージが送られました。

本学では、平成 29 年 5 月に重点連携大学の再選定を実施し、大学の国際研究力を強化することを目標としています。本学の研究分野での強みを、重点連携大学事業を通じてグローバルに発展させ、国際社会へ貢献すると共に、学生や地域の皆さまにとって魅力のある大学となるよう、取り組んでまいります。

---

○ 駐日東ティモール大使が本学を表敬訪問されました

2020年9月25日(金)、駐日東ティモール民主共和国大使館より、イリディオ シメネス ダ コスタ特命全権大使及びヌノ アルバレス モニズ マルケス アルベス参事官が本学を表敬訪問されました。

2002年の東ティモール独立後、日本政府は国際協力機構(JICA)を通じて東ティモール国立大学工学部に支援を開始し、本学は、2011年開始の東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクト・フェーズ1より支援大学として参加してきました。

今回、大使らは、本学大学院創成科学研究科(工学系)に所属する東ティモール国立大学からの社会人ドクターの博士取得修了に合わせて、ご来学されました。

表敬訪問では、午前中に常盤キャンパスにて、堤宏守工学部長をはじめ、関係者と懇談した後に、午後から吉田キャンパスにて、岡正朗学長、進士正人副学長(国際連携担当)、富本幾文副学長補佐らと懇談されました。吉田キャンパスでの懇談では、初めに、

進士副学長より、本学の説明を行いました。その後、大使から、本学への感謝のお言葉をいただきました。これに対して、岡学長からは、これからも良好な関係を築いていきたいと伝えられました。

本学は、10月に東ティモールからの国費留学生を新たに2名迎え入れます。今後も東ティモールの発展及び両国交流の進展に寄与できるよう、関係機関との連携を強化し、本学の国際化を促進してまいります。



集合写真



懇談の様子

---

○ 文部科学省「大学の世界展開力強化事業～アフリカ諸国との大学間交流形成事業～」に採択されました

2020年12月、共同獣医学部とナイロビ大学獣医学部（ケニア）の連携事業「アジア・アフリカにおける One Health 問題の解決に向けた感染症対策を担う獣医師育成プログラム」が、「大学の世界展開力強化事業～アフリカ諸国との大学間交流形成事業～」に採択されました。「大学の世界展開力強化事業」は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力を強化するため、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の受入れを行う国際教育連携の取組を文部科学省が採択支援するものです。2020年度開始の「アフリカ諸国との大学間交流形成支援」のうち、本学が採択されたのは、交流を新たに開始したばかりのプログラムを対象とする、『タイプ A (1) 交流推進プログラム・スタートアップ型』で、事業期間は2020年度から2024年度までの5年間です。

この事業は、本学共同獣医学部とケニアのナイロビ大学獣医学部の連携を軸に、アジア・アフリカにおける獣医学教育・研究の連携を発展させ、相互交流によりグローバルな視点から学ぶことで、ヒト、動物、環境の健康（One Health）に関する問題のうち、特に重要な「感染症」に焦点を絞り、この分野に貢献する獣医師養成のためのプログラムを構築するものです。

感染症の問題は、地域特有の地理的要因や社会的背景に起因し、ヒトや物流のグローバル化に伴い急速に拡散することから、常に世界的な問題となっています。感染症制圧のために重要な役割を担い、One Health に貢献できる獣医師のニーズは世界的にも高まり、グローバルな視点に立って種々の問題に対処できる知識と技術を持ち合わせた獣医師の育成が強



く求められています。環境や社会的状況の異なる国や地域で学ぶ機会は、よりレベルの高い知識、技量、広い視点を備えた獣医師の育成に欠かせません。本事業では、遠隔システムによる共通講義やグループディスカッション、学生や若手教員の受入れ・派遣による現地での実習・交流、企業や研究機関の協力による研修等を活用し、感染症対策を中心とした **One Health** に資する獣医師の育成を目指すとともに、日本及びアフリカ諸国の獣医学教育の発展を目指します。



写真左から、  
 カウンターパートのナイロビ大学 Aboge 先生、  
 山口大学共同獣医学部 早坂大輔教授、  
 長崎大学熱帯医学研究所 井上先生、  
 ケニアで獣医師として活躍されている神戸先生  
 <ナイロビ大学にて撮影>

○ カリフォルニア大学バークレー校の曾我健一教授による特別講演を開催しました

2020年12月2日(水)、カリフォルニア大学バークレー校の曾我健一教授による特別講演を Zoom で開催し、山口大学の学生が約 70 名参加しました。

スマートインフラストラクチャと建設の分野でのパイオニアの一人である曾我教授に、ケンブリッジ大学とカリフォルニア大学バークレー校での自身の研究である光ファイバーを使用したトンネルや道路などのモニタリング研究について講演いただきました。また、最近の研究であるパイプラインを使用した災害時のシミュレーション実験の研究についてもご紹介いただきました。

興味を引く内容の講演となり、参加した学生たちは、国際的な思考や研究について学ぶ機会となりました。

なお、本特別講演は、「オンラインを活用した国際交流プロジェクト」の支援を受けて、社会建設工学分野の MD. AZIZUL MOQSUD 准教授が中心となり開催されました。



○ カリフォルニア・ポリテクニック州立大学の Jim Hanson 教授による特別講演を開催しました

2020年12月16日(水)、カリフォルニア・ポリテクニック州立大学の Jim Hanson 教授による特別講演を Zoom で開催し、山口大学の学生が約 70 名参加しました。

地盤工学と環境工学に関連する地盤環境工学とカリフォルニア・ポリテクニック州立大学のグローバル・廃棄物研究センターの技術革新について講演いただきました。Jim Hanson 教授の最近の研究である、世界中のさまざまな地域での最終処分場の地表から地下までの温度分布の観測研究について、寒い地域ほど温度が高いという驚くべき結果が提示されました。

なお、本特別講演は、「オンラインを活用した国際交流プロジェクト」の支援を受けて、社会建設工学分野の MD. AZIZUL MOQSUD 准教授が中心となり開催されました。



The poster features the logos of Yamaguchi University (山口大学) and California Polytechnic State University (CAL POLY). The text reads: "Special Lecture by Professor Jim Hanson" and "California Polytechnic State University, San Luis Obispo, USA". A portrait of Professor Jim Hanson is shown on the left. The title of the lecture is "Geoenvironmental Engineering as a Bridge Discipline Between Geotechnical and Environmental Engineering". The date and time are listed as "Date : 16<sup>th</sup> December 2020" and "Time : 9:00 am (Japan time)". The online platform is "Online: Zoom". The organizer is identified as "Organized by: M. Azizul Moqsud, Associate Professor, CEE, Yamaguchi University, Japan" with the email "[azizul@yamaguchi-u.ac.jp]".

### 3. 国際交流協定

#### (1) 2020 年度の国際交流協定の締結等

2020 年度は国際交流協定を 1 大学(学部間) と締結し、26 の大学・機関(大学 20 大学、学部間 6 大学・機関)と更新した。

その結果、2021 年 3 月末現在で、山口大学は大学等間では 23 カ国・地域の 107 大学・機関と国際交流協定を締結し、学部等間では 9 学部、4 研究科が 26 カ国・地域の 65 大学・機関と国際交流協定を締結している。

#### (2) 大学等間国際交流協定

国・地域名	機関名 (英語表記)	締結年月日	学生交流覚書
インドネシア	ブラウィジャヤ大学 (Brawijaya University)	2008.04.15	有
	ガジヤマダ大学 (Gadjah Mada University)	2008.10.14	
	ボゴール農科大学 (IPB University)	2010.03.10	
	ウダヤナ大学 (Udayana University)	2010.03.25	有
	バンドン工科大学 (Bandung Institute of Technology)	2012.05.25	有
	インドネシア大学 (University of Indonesia)	2015.12.16	有
	地理空間情報庁 (Geospatial Information Agency)	2016.07.20	
	財務省財政均衡総局 (Directorate General of Fiscal Balance, Ministry of Finance)	2016.01.21	
	シャリフ・ヒダヤトゥラー イスラム宗教国立大学 (Syarif Hidayatullah State Islamic University Jakarta)	2018.10.18	
	スブラス・マレット大学 (Universitas Sebelas Maret)	2019.10.10	
韓国	仁荷大学校 (Inha University)	1998.06.25	有
	公州大学校 (Kongju National University)	1999.03.15	有
	韓国外国語大学校 (Hankuk University of Foreign Studies)	2003.12.02	有
	慶尚大学校 (Gyeongsang National University)	2004.11.26	有
	ソウル市立大学校 (University of Seoul)	2009.12.21	有
	昌原大学校 (Changwon National University)	2010.02.10	有
	ソウル大学校 (Seoul National University)	2010.02.11	有
	亜州大学校 (Ajou University)	2010.03.08	有
	梨花女子大学校 (Ewha Womans University)	2010.03.08	有
	群山大学校 (Kunsan National University)	2010.04.26	有
	釜山外国語大学校 (Busan University of Foreign Studies)	2014.12.04	有
	全北大学校 (Chonbuk National University)	2015.09.16	有

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
韓国	忠北大学校 (Chungbuk National University)	2016.12.23	有
タイ	カセサート大学 (Kasetsart University)	1998.07.03	有
	ソンクラ王子大学 (Prince of Songkla University)	2001.10.29	有
	コンケン大学 (Khon Kaen University)	2001.10.30	有
	チェンマイ大学 (Chiang Mai University)	2001.10.31	有
	シーナカリンウィロート大学 (Srinakharinwirot University)	2001.11.01	有
	タイ国農学研究機構 (Agricultural Research Development Agency)	2008.08.27	
	チュラロンコン大学 (Chulalongkorn University)	2010.09.14	
	キングモンクット工科大学ラカバン校 (King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang)	2018.08.10	
	中国	山東大学 (Shandong University)	1983.06.02
北京師範大学 (Beijing Normal University)		2004.02.09	有
武漢理工大学 (Wuhan University of Technology)		2004.05.20	有
貴州大学 (Guizhou University)		2005.03.25	有
重慶理工大学 (Chongqing University of Technology)		2010.11.19	有
首都師範大学 (Capital Normal University)		2011.10.17	有
江蘇大学 (Jiangsu University)		2013.09.03	有
大連外国語大学 (Dalian University of Foreign Languages)		2013.12.30	有
西安交通大学 (Xi'an Jiaotong University)		2015.04.28	有
香港樹仁大学 (Hong Kong Shue Yan University)		2015.07.20	有
香港教育大学 (The Education University of Hong Kong)		2015.09.02	有
遼寧師範大学 (Liaoning Normal University)		2016.03.15	有
浙江理工大学 (Zhejiang Sci-Tech University)		2017.01.03	有
湖州師範大学 (Huzhou University)		2017.02.28	有
台湾	国立中興大学 (National Chung Hsing University)	2006.03.09	有
	東海大学 (Tunghai University)	2009.09.30	有
	逢甲大学 (Feng Chia University)	2009.09.30	有
	大葉大学 (Dayeh University)	2009.09.30	有
	静宜大学 (Providence University)	2009.09.30	有
	開南大学 (Kainan University)	2012.10.15	有

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
台湾	国立高雄師範大学 (National Kaohsiung Normal University)	2014.11.18	有
	淡江大学 (Tamkang University)	2016.12.29	有
ベトナム	カントー大学 (Can Tho University)	2011.11.16	有
	ベトナム国立農業大学 (Vietnam National University of Agriculture)	2012.03.29	有
	ベトナム国家大学ホーチミン市校 国際大学 (International University - Vietnam National University in Ho Chi Minh City)	2015.07.21	有
	国立ハノイ教育大学 (Hanoi National University of Education)	2015.07.22	有
	東部国際大学 (Eastern International University)	2015.12.07	有
	ダナン科学技術大学 (University of Science and Technology, The University of Danang)	2017.07.05	有
	マレーシア	サラワク大学 (University Malaysia Sarawak)	2012.03.29
マレーシア	マレーシア工科大学 (University of Technology, Malaysia)	2012.09.05	有
	クアラルンプール大学 (University of Kuala Lumpur)	2016.07.13	有
マレーシア	マラ工科大学 (University of Technology MARA)	2017.07.05	有
	ラオス	ラオス国立大学 (National University of Laos)	2012.04.12
ミャンマー	イエジン農業大学 (Yezin Agricultural University)	2015.01.12	
イギリス	シェフィールド大学 (University of Sheffield)	1997.11.28	有
	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (University College London)	2007.11.19	
	セントラル・ランカシャー大学 (University of Central Lancashire)	2012.11.05	(協定書内に学生交流に関する記載有)
	エディンバラ大学 (The University of Edinburgh)	2018.11.12	
	バース大学 (University of Bath)	2019.08.05	有 (医学部)
ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学 エアランゲン・ニュルンベルク (Friedrich-Alexander University Erlangen-Nuremberg)	2003.03.17	有
	ホフ大学 (Hof University of Applied Sciences)	2015.03.16	有
	ベルリン・ボイト工科大学 (Beuth University of Applied Sciences Berlin)	2015.08.17	有
フランス	リール大学 (The University of Lille)	2015.10.16	有
	リール・カトリック大学 (Lille Catholic University)	2016.01.20	有
	ボルドー大学 (The Univeristy of Bordeaux)	2019.09.13	有
スペイン	サラゴサ大学 (University of Zaragoza)	2014.11.27	有
	バルセロナ自治大学 (Autonomous University of Barcelona)	2015.09.14	

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
スペイン	ハイメ I 世大学 (Jaume I University)	2017.10.26	有
ハンガリー	エトヴェシュ・ロラード大学 (Eotvos Lorand University)	2015.05.25	(協定書内に学生交流に関する記載有)
	カーロリ大学 (Károli Gáspár University of the Reformed Church in Hungary)	2015.08.18	有 (国際総合科学部)
ロシア	モスクワ大学 (M.V. Lomonosov Moscow State University)	2015.03.05	
	ロシア工科大学 (MIREA - Russian Technological University)	2015.11.26	
	ロシア国立農業大学 モスクワ・ティミリャーゼフ農業アカデミー (Russian State Agrarian University - Moscow Timiryazev Agricultural Academy)	2017.09.07	
リトアニア	ヴィータウタス・マグヌス大学 (Vytautas Magnus University)	2015.09.03	有
デンマーク	サザンデンマーク大学 (University of Southern Denmark)	2016.05.26	有
アメリカ合衆国	オクラホマ大学 (University of Oklahoma)	1996.02.19	有
	ハワイ大学ヒロ校 (University of Hawai'i at Hilo)	2015.02.25	
	中央フロリダ大学 (University of Central Florida)	2015.04.16	有
	カリフォルニア州立大学ポリテクニク大学ポモナ校 (California State Polytechnic University, Pomona)	2015.03.20	
	フィッチバーグ州立大学 (Fitchburg State University)	2015.12.21	有
	イーストウエストセンター (East-West Center)	2018.05.16	
	ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ (University of Hawai'i Kaua'i Community College)	2018.08.07	有
	マンハッタンビル大学 (Manhattanville College)	2016.07.19	有
	ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ (University of Hawai'i Kapi'olani Community College)	2019.05.13	
カナダ	リジャイナ大学 (University of Regina)	1996.02.07	有
チリ	バルバライズン大学 (University of Valparaiso)	2015.07.02	有
	コンセプション大学 (University of Concepcion)	2016.01.13	有
ブラジル	サンパウロ大学 (University of São Paulo)	2018.02.19	
	サンパウロ・ポンティフィシア・カトリック大学 (Pontifical Catholic University of São Paulo)	2018.02.27	
ペルー	ペルー国立工科大学 (National University of Engineering)	2016.09.20	
	ラ・モリーナ国立農業大学 (La Molina National Agrarian University)	2017.06.06	有
	国立サンマルコス大学 (National University of San Marcos)	2017.08.28	有
	サン・イグナシオ・デ・ロヨラ大学 (Saint Ignatius of Loyola University)	2017.08.29	有
	ペルー国家防災庁 (National Institute of Civil Defense (INDECI))	2017.08.29	

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
オーストラリア	ニューカッスル大学 (University of Newcastle)	2003.08.08	有
	シドニー工科大学 (University of Technology, Sydney)	2012.05.30	有

(3) 部局等間国際交流協定

国・地域名	締結部局	機関名	締結	学生交流
		(英語表記)	年月日	覚書
インドネシア	工学部	マランイスラム大学 医学部 (Faculty of Medicine, Islamic University of Malang)	2014.06.27	
		マランイスラム大学 農学部 (Faculty of Agriculture, Islamic University of Malang)	2014.06.27	
		マランイスラム大学 工学部 (Faculty of Engineering, Islamic University of Malang)	2015.07.31	
		リアウ大学 工学部 (Faculty of Engineering, Riau University)	2014.12.24	有
	共同獣医学部	アイルランガ大学 獣医学部 (Faculty of Veterinary Medicine, Airlangga University)	2018.07.04	有
	理工学研究科	国家防災庁 データ・情報・広報センター (Center of Data, Information and Public Relations, National Disaster Management Agency)	2016.01.21	
韓国	理学部	韓国天文研究院 電波天文研究部 (Radio Astronomy Division, Korea Astronomy and Space Science Institute)	2010.03.15	
	工学部	又松大学校 鉄道物流学部 (College of Railroad and Transportation, Woosong University)	2010.02.01	
	医学部	チェジュハラ大学看護学部及び保健学部 (The School of Nursing and school of Health Sciences Cheju Halla University)	2019.6.5	
タイ	医学部	マヒドン大学 看護学部 (Faculty of Nursing, Mahidol University)	2001.03.26	
	農学部	キングモンクット工科大学 トンブリ校 生物資源工学研究科 (School of Bioresources and Technology, King Mongkut's University of Technology Thonburi)	2006.05.23	有
		タクシン大学 技術・地域開発学部 Faculty of Technology and Community Development, Thaksin University)	2012.01.16	
		メージョー大学 農学生産学部 (Faculty of Agricultural Production, Maejo University)	2012.02.23	有
		ラジャマンガラ工科大学 農業産業技術学部 (Faculty of Agro-Industrial Technology, Rajamangala University of Technology Tawan-ok)	2013.07.11	有
		メーファールアン大学 理学部 (School of Science, Mae Fah Luang University)	2016.01.04	有
		スラナリー工科大学 農業技術学部・理学部 (Institute of Agricultural Technology, Institute of Science, Suranaree University of Technology)	2020.10.23	有
	工学部	シラパコーン大学 工学・産業技術学部 (The Faculty of Engineer and Industrial Technology, Silpakorn University)	2019.05.09	

国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結 年月日	学生交流 覚書
中国	教育学部	復旦大学 情報科学工程学院 (School of Information Science and Engineering, Fudan University)	2005.09.23	有
	経済学部	中国人民大学 経済学院 (School of Economics, Renmin University of China)	2001.06.03	有
		復旦大学 日本研究センター (Center for Japanese Studies, Fudan University)	2019.11.04	
	医学部	大連医科大学 (Dalian Medical University)	2006.12.14	
	工学部	上海交通大学 環境科学与工程学院 (School of Environmental Science and Engineering, Shanghai Jiao Tong University)	2004.02.11	
		西華大学 (Xihua University)	2007.02.05	有
		四川大学錦江学院 (Jinjiang College, Sichuan University)	2019.06.20	有
	国際総合科学部	山東農業大学 外国語学院 (College of Foreign Languages, Shandong Agricultural University)	2016.03.15	有
東アジア研究科	復旦大学 日本研究センター (Center for Japanese Studies, Fudan University)	2001.10.29		
台湾	経済学部	国立高雄餐旅大学 (National Kaohsiung University of Hospitality and Tourism)	2012.03.09	有
	医学部	国立台湾大学 医学院 (College of Medicine, National Taiwan University)	2009.04.01	
	理学部	国立台湾大学 理学院 (College of Science, National Taiwan University)	2017.5.22	
		台湾師範大学 理学院 (College of Science, National Taiwan Normal University)	2016.12.30	
	教育学部	淡江大学 文学院 (College of Liberal Arts, Tamkang University)	2013.07.23	有
	人文学部	東呉大学 人文社会学部 (School of Liberal Arts and Social Sciences, Soochow University)	2014.09.19	
マレーシア	工学部	ペトロナス工科大学 (Petronas Technological University)	2018.10.11	有
		マレーシア・プトラ大学 (University Putra Malaysia)	2020.03.26	
		トゥンフセインオンマレーシア大学 (Universiti Tun Hussein Onn Malaysia)	2020.04.30	
モンゴル	共同獣医学部	モンゴル国立生命科学大学獣医学研究所 (Institute of Veterinary Medicine, Mongolian University of Life Sciences)	2015.11.13	
ネパール	連合獣医学研究科	農業林業大学 畜産獣医水産学部 (Faculty of Animal Science, Veterinary Science and Fisheries, Agriculture and Forestry University)	2015.03.05	
	経済学部	ネパール行政職員大学 (The Nepal Administrative Staff College)	2020.01.24	
バングラデシュ	理学部	バングラデシュ核エネルギー食物・放射線生物学研究所 (Institute of Food and Radiation Biology, Atomic Energy Research Establishment)	2000.05.04	
	農学部	ジャハンギナガル大学 生物科学部 (Faculty of Biological Science, Jahangirnagar University)	2012.03.06	有



国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結 年月日	学生交流 覚書
ベトナム	共同獣医学部	ベトナム農業農村開発省畜産研究所 (National Institute of Animal Science, Ministry of Agriculture and Rural Development)	2012.07.24	
	理学部	フエ大学 理学部 (Hue University of Sciences, Hue University)	2017.04.18	有
スリランカ	農学部	スリランカ農業局及びペラデニア大学農学研究科 (Department of Agriculture, Sri Lanka & Postgraduate Institute of Agriculture, University of Peradeniya)	2016.03.03	
インド	経済学部	カルカッタ大学 経済学部 (Department of Economics, University of Calcutta)	2019.02.08	
		カルカッタ大学 商学・福祉・経営学群 (Faculty of Commerce, Social Welfare and Business Management, University of Calcutta)	2019.02.08	
	工学部	クルクシェトラ工科大学 (National Institute of Technology, Kurukshetra)	2017.01.11	
フィリピン	共同獣医学部	ダバオ・オリエンタル州立大学 海浜生物環境センター (Regional Integrated Coastal Resource Management Center-Region XI of the Davao Oriental State University)	2019.09.23	
トルコ	工学部	シェヒル大学 工学・自然科学部 (College of Engineering and Natural Sciences, Istanbul Sehir University)	2017.04.19	有
	経済学部	カディル・ハス大学 経済・行政・社会科学部 (The Faculty of Economics, Administrative and Social Sciences, Kadir Has University)	2019.06.29	
ウクライナ	教育学部	イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学 (Ivan Franko National University of Lviv)	2004.11.16	有
イギリス	工学部	ブリストル大学 工学部 (Faculty of Engineering, University of Bristol)	2010.03.01	
ロシア	医学部	カザン医科大学 (Kazan State Medical University)	2012.12.17	
ポルトガル	工学部	新リスボン大学 理工学部 (Faculty of Science and Technology, New University of Lisbon)	2013.08.08	有
スペイン	工学部	カンタブリア大学 産業工学通信学部 (School of Industrial Engineering and Telecommunications, University of Cantabria)	2015.02.25	有
オランダ	農学部	ワーゲニンゲン大学 オランダ遺伝資源センター (Centre for Genetic Resources, the Netherlands (CGN))	2017.04.01	
ケニア	共同獣医学部	ナイロビ大学 獣医学部 (Faculty of Veterinary Medicine, University of Nairobi)	2017.06.30	
アメリカ合 衆国	国際総合 科学部	エルジンコミュニティカレッジ (Elgin Community College)	2015.07.28	(協定書内 に学生交 流に関す る記載 有)
	医学部	シティ オブ ホープ (City of Hope)	2017.08.01	
	医学系研究科	カンザス大学 メディカルセンター (The University of Kansas Medical Center, The University of Kansas)	2017.08.11	

国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結 年月日	学生交流 覚書
カナダ	医学部	ニューファンドランドメモリアル大学 (Memorial University of Newfoundland)	2019.07.09	有
アルゼンチン	農学部	ラプラタ大学 理学部 (Faculty of Science, National University of La Plata)	2011.04.27	
		公立ミシオネス大学 精密自然科学部 (Faculty of Exact, Chemical and Natural Sciences, National University of Misiones)	2018.10.16	
オーストラリア	連合獣医学研究科	西オーストラリア大学 農学研究科 (The UWA Institute of Agriculture, University of Western Australia)	2015.10.22	
ニュージーランド	農学部	ニュージーランド作物・食物研究所 (New Zealand Institute for Plant & Food Research Limited)	2008.09.03	
	経済学部	ワイカト大会計・ファイナンス・経済学部 (School of Accounting, Finance, and Economics, The University of Waikato)	2019.09.20	

#### 4. 海外拠点

本学では海外協定校の協力のもと、外国の教育研究機関との相互交流の推進及び本学の情報発信等を目的とし、6カ国・地域の計6ヶ所に国際連携オフィスを設置している。その内インドネシア、台湾、マレーシア、タイの4つの拠点事務所に現地スタッフを配置し、現地の優秀な学生獲得に向けた広報活動、本学派遣学生の留学支援や同窓会活動の支援等を行っている。

また、本学の大学等間国際交流協定校であるガジヤマダ大学（インドネシア・ジョグジャカルタ）に、両大学間で特に交流の深い獣医学分野を中心に本学のインドネシアでの拠点として、国際共同事務局を開設している。

- ① 「山口大学 山東国際連携オフィス」  
住所：中国 250100 山東省済南山大南路 27 号 山東大学内
- ② 「山口大学 バリ国際連携オフィス」  
住所：Udayana University  
Jl.P.B Sudirman Campus Gedung FISIP 2F Denpasar Bali Indonesia
- ③ 「山口大学 台湾国際連携オフィス」  
住所：台湾 51591 彰化県大村郷学府路 168 号 大葉大学内
- ④ 「山口大学 クアラルンプール国際連携オフィス」  
住所：Malaysia-Japan International Institute of Technology (MJIIT)  
Universiti Teknologi Malaysia Kuala Lumpur Campus  
Jalan Sultan Yahya Petra, 54100, Kuala Lumpur Malaysia
- ⑤ 「山口大学 バンコク国際連携オフィス」  
住所：Kasetsart University  
50 Ngam Wong Wan Rd, Ladyao Chatuchak Bangkok, 10900,  
Thailand

⑥ 「山口大学 ハノイ国際連携オフィス」

住所：Vietnam National University of Agriculture

Trau Quy-Gia Lam-Ha Noi-Viet Nam

(国際共同事務局)

「山口大学・ガジヤマダ大学国際共同事務局」

住所：Universitas Gadjah Mada

Jl. Fauna No.2, Karangmalang, Yogyakarta, Indoensia

## 5. 本部への海外からの来訪者

日時	訪問者	国・地域
2020/9/25	駐日東ティモール民主共和国大使館 特命全権大使及び参事官	東ティモール

## 6. 本学学長の海外訪問

訪問日程	訪問先・内容（訪問者）	国・地域名
	※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により，実施無し	

## 7. 海外ネットワークとの連携

日本・アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）

本学は、共同獣医学部とナイロビ大学獣医学部（ケニア）の連携事業が「大学の世界展開力強化事業～アフリカ諸国との大学間交流形式事業～」に採択されたことを受け、日本とアフリカの大学間連携の強化を目的とした組織である、JAAN（Japan Africa Academic Network：日本・アフリカ大学連携ネットワーク）に2021年3月に加盟した。今後は、他の加盟大学・機関とのネットワーク形成を図るとともに、年次総会等の出席を通じてアフリカに関する情報収集などを行う。

## 8. 研究者の交流

大学の主要な活動である研究においては、海外でのデータの収集、海外機関との研究交流による研究の加速化と精度の向上は不可欠である。そのため、毎年多くの教員、研究者を海外に派遣し、また山口大学にも多くの海外の大学教員、研究者を受け入れている。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、海外派遣は実施されなかった。一方で、外国人研究者の受入れに関しては、3名を受け入れた。

※人数の把握は、「国立大学法人山口大学海外渡航事務取扱要領」及び「国立大学法人山口大学外国人研究者規則」による。

### 重点連携大学事業について

本学では、研究分野を主体とした国際連携活動を強化することにより大学の研究レベルの高度化を図ると共に、学術を通じた教育支援及び国際貢献を行うことを目的として、特に本学の研究力向上につながると期待できる海外の大学を重点連携大学として選定し、選定大学との国際連携活動に対して支援を行っている。

各研究グループにおいては、例年、本事業の主目的である「国際共著論文数」の増加を図るため、教職員及び学生の重点連携大学等との相互派遣を実施する等、共同研究及び人材交流を進めてきた。2020年度に関しては、新型コロナウイルス感染拡大のため、このような相互派遣の実施は出来なかったが、オンライン等を活用した交流を各研究グループで実施した。このような研究交流活動の成果として発表された国際共著論文は、2020年度は25件であった。

## **9. 職員の研修**

### (1) 山口大学海外派遣 SD（スタッフ・ディベロップメント）研修

山口大学基金の支援を受け、毎年以下のとおり事務系職員を1週間程度海外に派遣し、海外の大学における管理方法、研究・教育支援体制を学ぶほか、職員の外国語能力の向上やグローバルマインドの醸成に努めている。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、派遣を実施しなかった。  
なお、SD研修が開始された2004年からの派遣実績は次表のとおりである。

年度	派遣者数	派遣国	派遣大学
2004	2	アメリカ	オクラホマ大学
		イギリス	シェフィールド大学
2005	2	アメリカ	ハワイ大学
		イギリス	シェフィールド大学
2006	2	カナダ	リジャイナ大学
		ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学・エアランゲン・ニュルンベルク
2007	2	アメリカ	オクラホマ大学
		オーストラリア	ニューカッスル大学
2008	2	中国	山東大学・香港中文大学
2009	2	中国	山東大学
2010	4	中国	山東大学
		台湾	大葉大学ほか
		インドネシア	ウダヤナ大学
2011	3	中国	山東大学
		インドネシア	ガジャマダ大学
2012	4	中国	山東大学
		台湾	大葉大学
		インドネシア	ガジャマダ大学
2013	13	中国	山東大学
		台湾	大葉大学
		インドネシア	ウダヤナ大学
		ベトナム	ハノイ農業大学・カントー大学
		タイ	カセサート大学・ラジャマンガラ工科大学
2014	16	中国	山東大学
		台湾	大葉大学
		インドネシア	ウダヤナ大学・ガジャマダ大学
		オーストラリア	シドニー工科大学・ニューカッスル大学
		カナダ	リジャイナ大学
		タイ	チェンマイ大学・シーナカリンウィロート大学
		マレーシア	マレーシア工科大学・マレーシア日本国際工科院
2015	13	中国	山東大学
		台湾	大葉大学・東海大学・静宜大学
		タイ	チュラロンコン大学・カセサート大学
		マレーシア	マレーシア工科大学・マレーシア日本国際工科院
		インドネシア	バンドン工科大学・ウダヤナ大学・国際交流基金ジャカルタ日本文化センター・インドネシア大学・ダルマブルサダ大学
		オーストラリア	ニューカッスル大学・シドニー工科大学
		イギリス	ブリストル大学・サリー大学・セントラルランカシャー大学・JSPSロンドン
		ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学・エアランゲン・ニュルンベルク
2016	9	中国	大連外国語大学・山東大学・APU上海オフィス
		台湾	大葉大学・国立中興大学・東海大学
		タイ	チェンマイ大学・カセサート大学・シーナカリンウィロート大学・チュラロンコン大学
		インドネシア	インドネシア大学・ガジャマダ大学・ウダヤナ大学・APUジャカルタオフィス
2017	3	中国	山東大学
		タイ	チェンマイ大学・カセサート大学
2018	2	中国	山東大学
2019	3	中国	山東大学
		イギリス	バース大学、ブリストル大学、セントラル・ランカシャー大学
2020	0		※新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため実施なし

## (2) 山口大学業務英語能力向上研修

本学では、外国人留学生及び研究者の生活、教育、研究の支援や、部局等の国際交流を担当できる事務職員の育成を目指し、2010年度から、外国人対応の業務に必要なコミュニケーション能力の習得及び英語能力向上を目指し職員研修を行っている。

本学の第3期中期目標・中期計画に掲げた「TOEIC スコア 800 点相当以上の職員を 5% 以上とする」という数値目標を 2018 年度に達成したため、2020 年度は英語能力の高い職員が各部署でその能力を活用する上で、「話す」「書く」の実践能力を向上させるための研修として、2 日間の集中発話トレーニング、及びテーマ設定も業務にあわせた 16 回の E メールによる英文添削指導を行うビジネスライティングを実施した。

## 10. 学内の国際化推進体制の整備

全学で学内文書の英語化を進めており、2019 年度に引き続いて、2020 年度は下記のとおり 15 件の文書の英語化を実施した。

2020年度学内文書英語化、実施文書一覧	
	文書名
1	学生定期健康診断 受診予約案内
2	保管用修士学位論文 (PDF) の提出方法について
3	承諾書
4	2020年10月入学 大学院創成科学研究科 (博士前期課程) 入学の手引
5	謝金従事者留意事項確認書
6	学生向けコンプライアンス教育用ポスター
7	年俸制制度について
8	年俸制適用に関する同意書
9	月給制と年俸制の給与モデル比較 (諸手当は除く)
10	様式マイナンバー届出書新規採用者
11	利益相反定期申告書
12	利益相反定期申告書 (企業等別詳細)
13	国立大学法人山口大学職員就業規則
14	国立大学法人山口大学非常勤職員就業規則
15	山口大学法人山口大学契約教育職員就業規則

## 11. 海外同窓会活動

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、活動を実施しなかった。

## 第 2 章 2020 年度の留学生部門の活動



## 第2章 2020年度の留学生部門の活動

2020年度の留学生総数は388名（2020年5月1日時点）であり、新型コロナウイルスの影響もあり、前年度より約44名減少した（図1）。地域別ではアジア圏からの留学生数が上位を占めており（図2）、その中でも中国からの留学が最も多い（図3）。

交換留学に関しては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、交換留学生として派遣していた学生を帰国させ、予定していた派遣を中止した。受入についても秋期中止することとなった。

交換留学だけでなく、本学の学生の海外渡航を禁止したため、海外へ留学した学生数は0名であった（図4）。

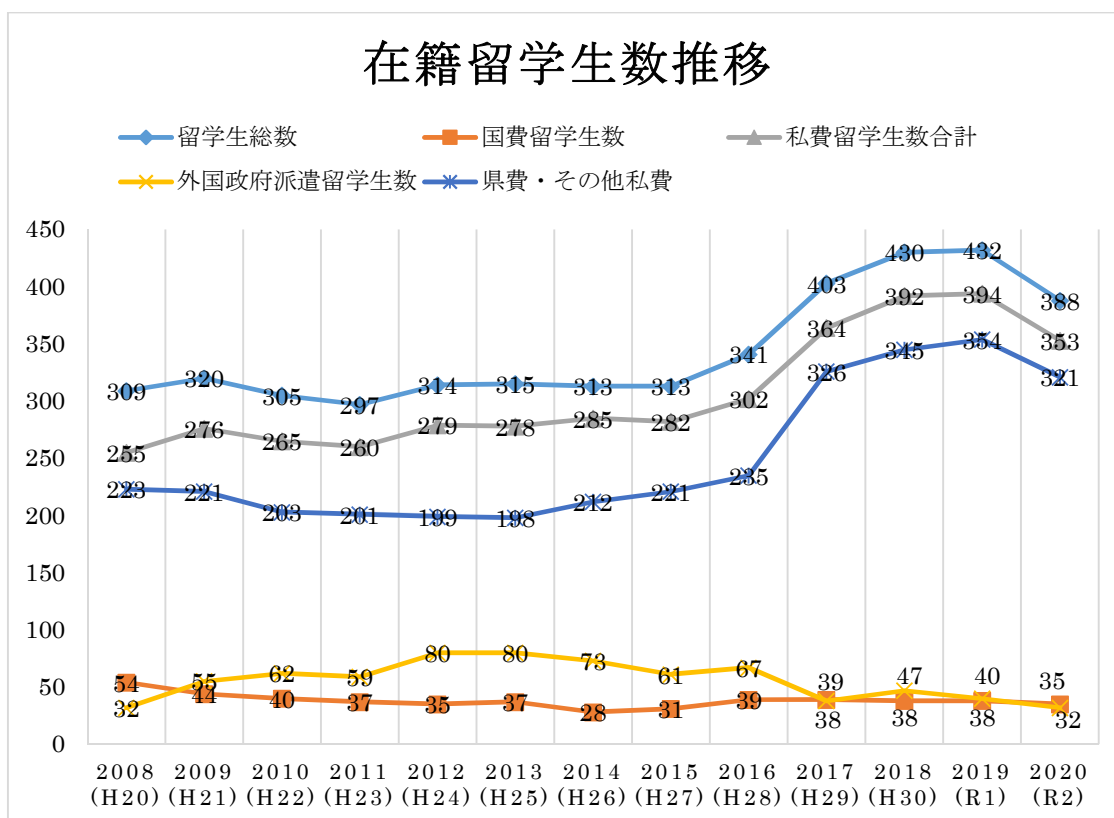


図1 在籍留学生数推移

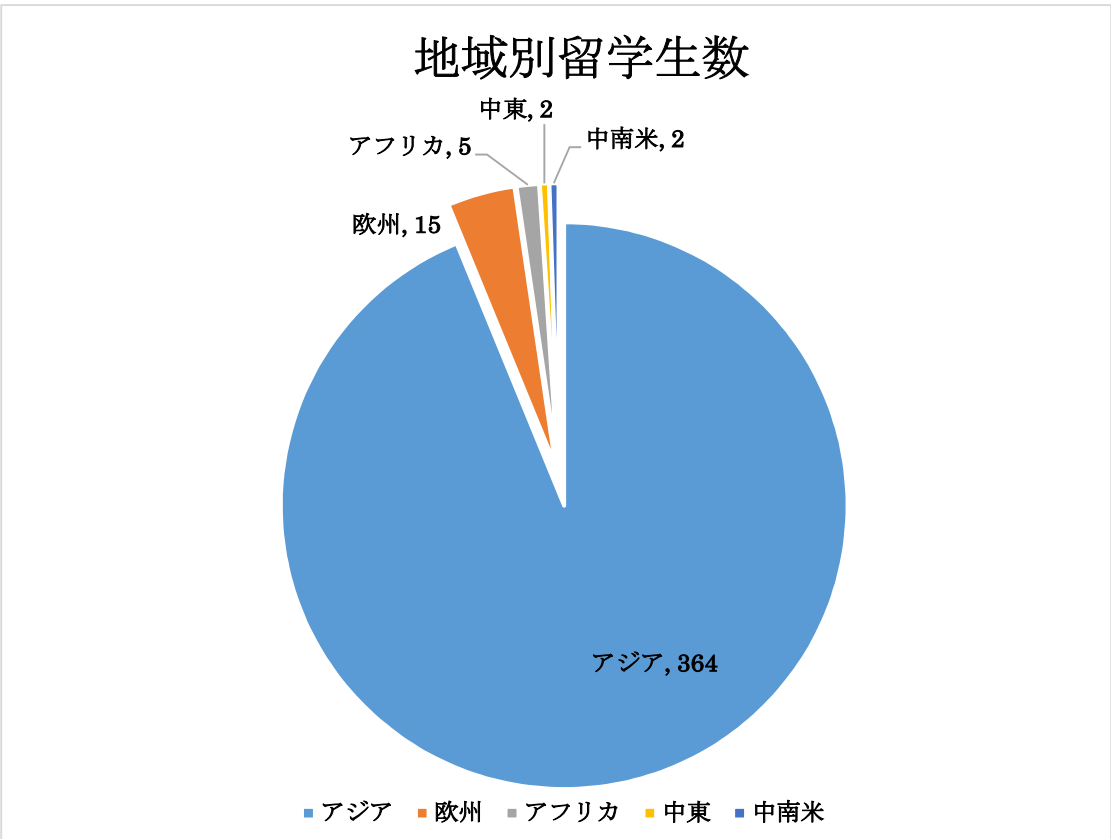


図 2 地域別留学生数

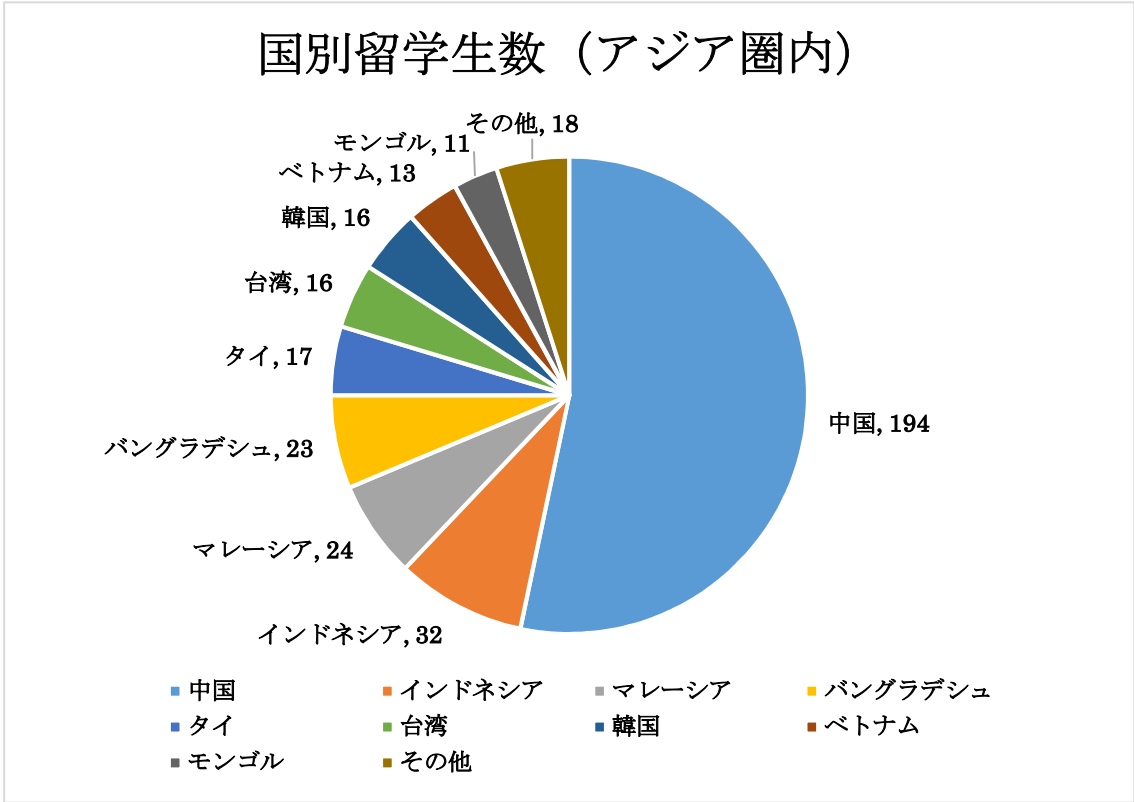


図 3 国別留学生数（アジア圏内）

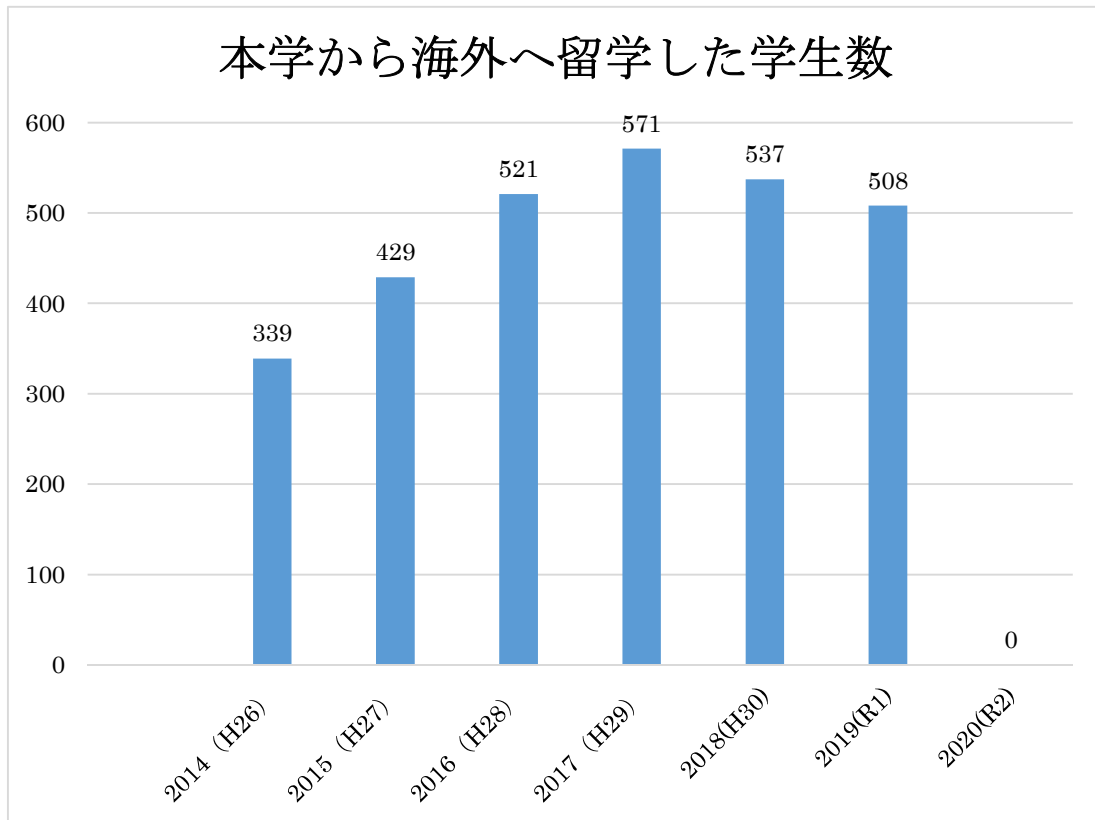


図4 本学から海外へ留学した学生数  
 (※独立行政法人 日本学生支援機構の「留学生調査」の集計基準に準ずる)

## 1. 留学促進のための環境整備

### (1) IELTS 学内受験の実施

2019年度より、全学生を対象に IELTS の学内受験を開始し、2020年度は10月と12月、2回実施した。新型コロナウイルスの影響により、派遣留学を中止している状況であったが、10月は39名、12月は33名の学生が受験した。

### (2) 留学生サポーター活動

2018年度に立ち上げた「留学生サポーター」は、2020年度も前期80名、後期75名と、多くの学生が登録し活動した。活動の一つとして、「NIHONGO Cafe」を開催し、日本語で留学生と日本人学生が交流する機会を提供していたが、新型コロナウイルス感染予防として、2020年度はオンラインで実施した。

### (3) 留学支援学生団体「SOAR (Student Organization assisting Ryugaku)」の結成

山口大学で留学に興味のある学生や、留学を計画している学生を支援することを目的に、留学経験者で構成される学生団体「SOAR」を結成した。2020年度は、留学に関する情報提供及び相談会「留学教室」を2回オンラインで実施し、留学に興味のある学生に留学に関する情報提供を行うと同時に、個別の質問や相談に対応した。

また、海外の協定校の学生と日本語で交流するイベント「World Cafe」を実施し、留学できない中で、海外の学生と交流できる機会を提供した。

## 2. 海外学生交流促進のための広報活動

### (1) 日本人学生向けの留学フェアの開催

11月30日～12月3日に「留学フェア」を開催した。留学経験者が作成した留学生活紹介のポスター展示、留学体験談発表、協定校紹介などを実施した。新型コロナウイルス感染防止のため、個別相談以外のプログラムはオンライン配信による実施も行った。

### (2) 海外の協定校が実施するオンラインプログラムの紹介

海外の協定校からオンラインでの語学研修プログラムや、文化体験プログラムの紹介があり、本学の学生に修学支援システム等で周知した。インドネシアのブラウイジャヤ大学のオンライン留学プログラムでは3名の学生が参加し、アメリカやフィリピンなど様々な学生とグループワークを行いながら、交流した。

### 第3章 2020年度の学術研究部門の国際交流活動

## 第3章 2020年度の学術研究部門の国際交流活動

### 独立行政法人日本学術振興会助成

#### 1. 外国人研究者招へい事業（一般プログラム）

独立行政法人日本学術振興会が実施する、優秀な諸外国の研究者に対し、我が国の大学研究機関等において日本側受入研究者の指導のもとに共同して研究に従事する機会を提供する事業。

【研究課題】 高度に規定された金属カルコゲナイドハイブリッド材料の設計とエネルギー関連機能

【研究期間】 2019年11月1日～2021年4月27日

【山口大学実施部局】 大学院創成科学研究科（工学系）

【山口大学担当教員】 中山 雅晴（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】 慶北大学校（韓国）

【相手方参加者】 Vijay Shamrao Kumbhar（博士研究員）

#### 【事業概要】

新規金属カルコゲナイド構造の多段階層的な制御によってそのポテンシャルを最大限引き出し、エネルギー機能材料として社会実装することを目指す。研究計画全体2カ年であったが、新型コロナウイルスの影響により一時研究を中断し（2020.5.28-2021.3.31）、早期終了することとなった。

#### 【得られた成果】

限られた期間の中で、ニッケルコバルト酸化物およびその複合物の合成、およびポリオール法による金属酸化物の合成において業績を挙げた。また、マンガタングステン酸化物が酸素還元反応に対して優れた触媒活性を示すことを初めて見出した。

#### 2. 二国間交流事業共同研究

独立行政法人日本学術振興会が実施する、個々の研究者交流を発展させた二国間の研究チームの持続的ネットワーク形成を目指し、我が国の大学等の優れた研究者（若手研究者を含む）が相手国の研究者と協力して行う共同研究・セミナーの実施に要する経費を支援する事業。

【研究課題】 オペランド分光法と理論計算の協奏による触媒表面設計指針の構築

【研究期間】 2020年4月1日～2022年3月31日

【山口大学実施部局】 大学院創成科学研究科（工学系）

【山口大学担当教員】 片山 祐（助教）

【相手方機関名（国・地域名）】 マサチューセッツ工科大学（米国）

【相手方参加者】 W.M. Keck Professor of Energy・Shao-Horn, Yang

### 【事業概要】

日本側ではオペランド分光法測定，米国側では日本側での測定により得られた各種パラメータをもとに理論計算を実施し，触媒表面設計指針の構築を目指す。初年度となる2020年度は，新型コロナウイルスの影響により，キックオフミーティングの共同開催や学会での研究内容の発表等，当初予定していた対面での研究交流は実施できなかった。一方で，オンラインで開催された学会で発表を行い，また，共同研究者とはオンラインによる研究交流を実施し，加えて，先方では大型計算機にリモートアクセスし実施可能な理論計算を実施した。

### 【得られた成果】

現在最も普及しているエネルギー貯蔵デバイスである，リチウムイオン二次電池の正極における表面電気化学反応プロセスを解明した（成果：Energy Environ. Sci., 2020, 13, 183-199, IF = 38.5）。また，解明したプロセスを基に触媒表面を設計することで，二次電池特性の改善に成功した（成果：J. Electrochem. Soc. 2020, 167, 040522, IF = 4.3）。また，各種オペランド測定と理論計算の協奏により，水分解反応（次世代のクリーンエネルギーである水素を水から製造する反応）の反応プロセスの全容を解明した（成果：Nature Catalysis 2020, 3, 516-525, IF = 30.5）。



## 第4章 2020年度の各部局での国際交流活動

## 第4章 2020年度の各部局での国際交流活動

### 人文学部

#### オンラインによる国際会議・講演会等の実施

- 音韻論フォーラム (Phonology Forum) 2020 (2020.8.28-30, 参加人数: 250名)

### 教育学部

#### 国内で国際感覚を養成する取り組みの実施

- 異文化学習論: 台湾の玄奘大学の日本語授業をオンラインで結び、日台混合のグループワークとその発表を実施 (2020.5.12・2020.5.19・2020.6.9, 参加学生 22名)
- 日本とオーストラリアの子どもがオンラインで遊ぶイベントを学生が企画・実施 (2020.8.2, 参加児童 5名・学生 2名)
- 国際理解教育演習: 11月5日から8週間にわたりドイツのアイヒシュタット・イングルシュタット大学, ブルガリアのソフィア大学, ポーランドのクラクフ大学との学生混合グループワークを実施し, 11月10日に顔合わせ, 1月12日に英語による合同最終プレゼンテーションを Zoom で行った (参加学生 7名)。また1月14日には留学生との交流を行った (参加学生 4名)
- 長門市立仙崎小学校とオーストラリアの小学校との合同授業を学生が企画・実施 (2020.12.7, 参加児童 45名・学生 1名)
- 山口県立山口農業高等学校において, 韓国在住の大学生をゲストティーチャーに招いたオンライン授業を学生が企画・実施 (2021.1.18, 参加生徒 34名・学生 1名)
- 山口県立山口農業高等学校において, 中国人留学生をゲストティーチャーに招いたオンライン授業を学生が企画・実施 (2021.2.18, 参加生徒 34名・学生 2名)

### 経済学部

#### オンラインによる国際会議・講演会等の実施

- Ostim Technical University 主催の Smart Economic Planning and Industrial Policy を協賛した。(2020.10.13-15)
- 山口大学(教授)による公開 Web シンポジウム  
「東(南)アジア諸国におけるコロナ禍に関する社会制度・組織 —いかに動かすか—」  
(2021.3.25-26・2021.3.30, 参加人数: 80名以上)

#### オンラインによる学生国際交流プログラムの実施

- 9～12月に、2週間おきに、観光政策学科プロジェクト演習で、14名の学生がハンガリーの大学の学生とオンラインで現地調査・交流を実施。
- 9～12月に、2週間おきに、観光政策学科プロジェクト演習で、5名の学生がハワイ大学の学生とオンラインで現地調査・交流を実施。

#### 国内で国際感覚を養成する取り組みの実施

- AY2020 Joint Student Symposium on Tourism and Hospitality Research に学生が参加し、英語で発表した。山口大学、和歌山大学、APU、琉球大学、関西外国語大学、神奈川大学から80名以上の学部生・大学院生が参加し、山口大学からは6名参加した。  
(2021.1.23)

#### その他

- SDGsによる山口県のスポーツ観光講座(2020.9-2021.1, 全8回)
- 山大×SDGs×JICA トークイベント(2020.12.22)

#### **理学部**

##### オンラインによる国際会議・講演会等の実施

- The Third International Workshop on Machine Learning and Computing for Visual Semantic Analysis (MLCSA2020) 2020(2020.12.3, 参加人数:約30名)

#### **医学部**

##### オンラインによる国際会議・講演会等の実施

- オーストラリア・ニューイングランド大学教授と保健学科看護学専攻教員とのオンラインによる定期的な共同研究打合せ(月2-4回), 国際学会発表(2020.11.13, Webinar: Halla-Newcastle PBL International Symposium, 学会参加人数:7名), 論文執筆, 投稿(2020.5-2021.3, 参加教員数:6名)
- City of Hope(米国) 山口陽子教授を招聘し, 基盤系特別専門講義「微生物の力を借りての医薬品開発」を山口大学小串キャンパスで対面にて開催(2020.10.23)
- ローザンヌ大学 Alessandro E.P. Villa 教授, Alessandra Lintas 博士を招待し「神経科学とデータ科学に関する国際セミナー」を Webex によるオンラインで開催(2021.2.17,

参加人数：20名)

- APAHL 維持継続のためのオンラインフォーラムによる交流の試みとして山口大学, チェンマイ大学, 梨花女子大学, マヒドール大学と APAHL Executive ミーティングをオンラインで実施(2021.2.1, 参加人数：13名・2021.3.22, 参加人数：9名)

#### オンラインによる学生国際交流プログラムの実施

- タイ・チェンマイ大学看護学部開催のオンラインシンポジウムに教員・学生が参加(2020.6.29, 参加教員数・学生数：8名)

#### 国内で国際感覚を養成する取り組みの実施

- 英国・バース大学からの医学部医学科短期研究プログラム：英国・バース大学から3名の学生をシステムズ再生・病態医化学講座で受入(2019.6.21-2020.6.20, 参加人数：1名・2020.12.15-2021.9.30, 参加人数：2名)

#### その他

- 自己開発コース・オンラインミーティング：海外オリジナルコースでの米国留学に向けて City of Hope (米国)の受け入れ予定の研究者らとのオンライン面談を行った。研究内容の説明と質疑応答・情報交換を行った。(2020.12.11, 参加学生数：2名)
- 国際シンポジウムのオンラインミーティング：国際シンポジウム開催に向けて City of Hope 研究者とオンラインで打合せを実施(2020.12.7, 2021.1.25)

### **工学部**

#### オンラインによる国際会議・講演会等の実施

- オンライン講演会「Molecular simulations for CO2 separation processes with Mixed Matrix Membranes」【相手大学：新リスボン大学 (ポルトガル)】(2020.06.04, 参加人数：約25名)
- 群山大学との The 12th Joint Seminar 【相手大学：群山大学 (韓国)】(2020.9.11, 参加人数：約30名)
- International Conference on Engineering and Industrial Technology(ICEIT)2020 【主催：シラパコーン大学 (タイ)】(2020.9.11-13, 参加人数：118名)
- 第1回山口大学-マレーシア・トゥン・フセイン・オン大学合同シンポジウム 2020【相手大学：マレーシア・トゥン・フセイン・オン大学 (マレーシア)】(2020.11.4, 参加人数：22名)

- The 17th Young Scientist Seminar 【主催：山口大学（日本）参加国：7か国】  
（2020.11.28-29, 参加人数：102名）
- オンライン講演会「Smart infrastructure and Construction」【カリフォルニア大学バークレー校（アメリカ）曾我健一教授による講演】（2020.12.2, 参加人数：約70名）
- オンライン国際シンポジウム「Symposium on Engineering Science of Biomolecular and Membrane Systems」【スイス連邦工科大学（スイス）Peter Walde 教授による招待講演及び国内6大学・3高専からの講演】（2020.12.5, 参加人数：16名）
- オンライン講演会「Geoenvironmental Engineering as a Bridge Discipline Between Geotechnical and Environmental Engineering」【カリフォルニア・ポリテクニク州立大学（アメリカ）Jim Hanson 教授による講演】（2020.12.16, 参加人数：約70名）
- International Conference of Innovative Application Research and Education (ICIARE)2020 【主催：瀋陽化工大学（中国）、忠北大学校（韓国）、山口大学（日本）】  
（2020.12.19, 参加人数：70名）
- International workshop on technologies for a sustainable society - Biorefinery and water-treatment - 【相手大学：シラパコーン大学（タイ）、チュラロンコン大学（タイ）】  
（2020.12.21, 参加人数：20名）
- オンライン講演会「How to be a Successful Civil and Environmental Engineer?」【レンセラー工科大学（アメリカ）Uchida Shun 准教授による講演】（2021.1.13, 参加人数：約60名）
- オンライン国際シンポジウム「バリの水環境保全に必須な水質と廃水処理の基礎知識の修得」【主催：ウダヤナ大学（インドネシア）、山口大学（日本）】（2021.1.25-27, 参加人数：約140名）
- オンライン国際シンポジウム「4th Human Resource development and Space data utilization for Disaster」【主催：ウダヤナ大学（インドネシア）、山口大学（日本）】  
（2021.1.29, 参加人数：約50名）
- オンライン国際シンポジウム「The 1st International Alumni Online Seminar on Disaster Prevention and Environment」【主催：山口大学（日本）参加国：8か国】  
（2021.3.4・2021.3.10, 参加人数：87名）
- オンライン国際シンポジウム「Cutting Edge technologies for A Disaster free Future」  
【主催：ロンドン大学（イギリス）、山口大学（日本）】（2021.3.12, 参加人数：約60名）

#### オンラインによる学生国際交流プログラムの実施

- Summer Program for Innovative Engineering Design (SP!ED) 2020 (2020.8.22-26,

参加学生数：48名)

- Creative Engineering Design Competition (CEDC) 2020 (2020.12.19-20, 参加学生数：190名)
- ウーロンゴン大学夏季オンライン語学研修 (2020.8.17～2020.9.11, 参加学生数：1名)
- ウーロンゴン大学春季オンライン語学研修 (2021.2.22～2021.3.17, 参加学生数：1名)

#### その他

- 外国人研究者の受入：1名 (新規)、3名 (継続)

#### **農学部**

##### オンラインによる国際会議・講演会などの実施

- The 17th Young Scientist Seminar (若手研究者セミナー) 【主催：工学部 星田尚司教授】 (2020.11.28-29, 参加人数：102名)

##### 国内で国際感覚を養成する取り組みの実施

- カセサート大学とのジョイントディグリープログラムにより、創成科学研究科に2名の修士課程学生 (日本人) が入学した。【2020年4月入学】
- カセサート大学で行われたオンライン講義 (2単位) とオンライン演習 (3単位) を受講し、2名のジョイントディグリープログラム修士課程学生 (日本人) が単位認定された。

#### その他

- インドネシア・ブラビジャヤ大学へリモート授業を開催 (10月に計3回, 参加人数：約50名)
- JICA 研修員 (学位課程就学者, ミャンマー) のためのリモート授業を開催 (10月, 11月に計8回)

#### **共同獣医学部**

##### オンラインによる国際会議・講演会等の実施

- The 5th AJIVE (Association of Japan-Indonesia Veterinary Education) Symposium (オンライン開催, 2021.2.13, 参加人数：141名 ※含インドネシア国内から43名, 日本国内から34名の発表者)

- 令和 2 年度大学教育再生戦略経費「大学の世界展開力強化事業～アフリカ諸国との大学間交流形成支援～」キックオフシンポジウム（2021.3.29, 参加人数：28 名）

#### オンラインによる学生国際交流プログラムの実施

- スペイン・サラゴサ大学獣医学部との双方向交流推進シンポジウム（2020.12.11, 参加教員 18 名・学生 16 名）

#### 国内で国際感覚を養成する取り組みの実施

- カリフォルニア州立大学 UC Davis の食品安全研究所が主催する One Health Food Systems Conference 2020 (Web 開催) に学部 4 年生が参加 (2020.7.20-2020.7.31, 参加学生：1 名)

#### その他

- 学部間国際交流協定 2 件  
更新 西オーストラリア大学農学研究所（オーストラリア） 2020.10.22 付け  
更新 モンゴル国立生命科学大学獣医学研究所（モンゴル） 2020.11.13 付け

### **国際総合科学部**

#### オンラインによる学生国際交流プログラムの実施

- 例年実施している 1 年生のフィリピン短期語学研修が中止となったことを受け、株式会社 QQEnglish が提供するオンラインキャンパス留学を実施した。(2020.8.31 - 2020.9.25 参加人数：92 名)

#### 国内で国際感覚を養成する取り組みの実施

- 派遣留学が中止となった 2 年生を対象に、留学予定先の地域の現地言語を学ぶ「グローバルコミュニケーション演習」、それぞれの国・地域の文化を学ぶ「文化・社会論演習」、国際社会で活躍するための知識・技能の修得を目指す「科学技術論演習」の特別プログラムを開講した。(2020 年度後期実施, 総科目数・参加者総数 40 科目・420 名)

### **東アジア研究科**

#### オンラインによる国際会議・講演会等の実施



- 令和 2 年度山口大学大学院東アジア研究科東アジア国際学術フォーラム「東アジア文化の歴史と現在」を山口大学人文学部大講義室にて開催した。会場及び web 会議ツールを利用したオンライン開催。(2020.11.27, 参加人数 164 名※うちオンライン参加人数 63 名)

#### 【講演内容】

徐 鳳 氏 (中国 曲阜師範大学翻訳学院教授)

「白居易の祥瑞思想と『竹取物語』の祥瑞兆候について」

肖 霞 氏 (中国 山東大学外国語学院教授)

「加藤幸子の『北京』記憶とノスタルジア」

朴 淳發 氏 (韓国 忠南大学校人文大学考古学科教授)

「韓半島における古代都市の成立」

グエン・ティ・ビック・ハー 氏 (ベトナム 貿易大学日本語学部非常勤准教授)

「ベトナム人日本語学習者の卒業論文・修士論文に見られる書き言葉と話し言葉についての一考察」

#### その他

- 文部科学省の 2020 年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」の社会科学分野に「インターアジア交流型教育に基づく知的影響力ある高度専門職業人の養成」のプログラム名称で申請し、採択された。

#### **技術経営研究科**

##### オンラインによる国際会議・講演会等の実施

- MOT 国際シンポジウム (ISAME2020) (2021.3.3-4, 参加人数 : 332 名)

概要：マラ工科大学（マレーシア）との共催でオンライン実施。バンドン工科大学（インドネシア）、ダナン科学技術大学（ベトナム）、マレーシア工科大学、マラ工科大学（マレーシア）、チェンマイ大学（タイ）、山口大学の 6 大学がアジア MOT コンソーシアムメンバーとして参加。その他、ケラニア大学（スリランカ）がオブザーバーとして参加した。会議では、デジタルトランスフォーメーションに関するマレーシアの専門家の基調講演を受け、特にコロナ禍におけるオンラインを積極的に活用した研究・教育の連携枠組みについて議論した。

#### オンラインによる学生国際交流プログラムの実施

- 二国間交流事業をもとにした後発発展途上国における社会課題解決技法と教育方法の構築（2021.3.22，参加人数：6名）

概要：本事業は、データサイエンスの技法を活用した社会課題解決技法の構築とその教育方法の確立にむけた事業性調査として位置付けた取り組みであり、『オンラインを活用した国際交流プロジェクト』の助成を得て、ケラニア大学（スリランカ）と当研究科英語プログラム学生に対して講義及びディスカッションを実施した。

#### 国内で国際感覚を養成する取り組みの実施

- MOT Special Global Seminar（交流相手：チェンマイ大学経営学部）（2021.3.20，参加人数：22名）

概要：チェンマイ大学経営学部の教員 3 名によって、当研究科学生および当研究科教員に対してタイにおけるマーケティングの現状について講義及びグループ討議を実施した。